1　チーム名（研究対象領域・教科） 高等部　作業学習①	
2　メンバー	高等部教員８名
3　チームのテーマ 仲間と共に自分の力を発揮し、成就感がもてる授業やかかわりを目指そう	
4　対象児童生徒に願う主体的な姿 ・卒業後の生活について関心を高め、仕事をすることに意欲を持って取り組める生徒。 ・自分の行動について考え、改善しようとしながら自分らしさを表現できる生徒。	

5　研究仮説

本生徒が高等部の学習の中で、最もやりがいをもって取り組めている作業学習を通して、自信をもち、他の学習にも主体的に取り組むことができるようになるのではないか。

6　研究実践の内容

（1）生徒の実態把握

・本生徒の全体像を知るために、付箋紙を用いてできるだけ多くの資料を集めた。

・農芸班での作業学習の取り組みから、外での活動を好んでいる。外に出ることで情緒が安定する。また見通しをもつことができる活動であれば、一人で取り組めるようになってきている。

・次の活動に移る場合、不安定になりやすい。

・会話などから、丁寧な言葉遣い。家族思いで優しい性格。

・聴覚優位で、たくさんの情報が入ってくる。音による刺激で集中できなくなることがある。

（2）作業学習（農芸班）での実践

・あいさつ、返事、報告など、目標の強化月間など。

今月の目標を決め、本生徒以外でも意識して取り組めることを明確にした。

・責任を持って取り組める活動を設定。

水やり、液肥追肥等、60L ポリバケツに水を溜める活動を行わせた。はじめは同じグループの生徒と一緒に行っていたが、継続して行うことで手順を理解できるようになった。一人で取り組むよう指示を出すと、一人で取り組む時に不安がある場合は自分から友達に「手伝ってください」とお願いできるようになり、「できません」とはじめから断ることがなくなった。

・忙しさを感じさせる仕事量。

パワーまつりに向け、栽培管理が忙しくなった。何をどれだけやるか、作業開始前に確認することで、どの生徒にも見通しをもって取り組めるようにした。収穫作業は、収穫物の扱いについて注意を促すこと以外は、教師からの指示は少なくし、生徒同士で成就感を味わうことができるよう思いっきり体を使って活動できるようにした。

（3）第Ⅲ期校内実習での実践

・事前学習を行い、いつ、どこで、何をするか、繰り返し学習を重ねた。

・個別の出来高表をグラフ化することで、仕事量を自分だけでなく保護者にも伝わるようにした。

・不安定になった時、次の活動に移ることが難しかった時など、一人になって気持ちを落ち着かせる時間を設けた。

7　成果と課題

・本生徒は初めての経験が苦手で、新しい学習に取り組む際に苦手意識が高まり、主体的に取り組むことが難しい。大きな声を出し、自己解決にもならない行動をして、周囲に不快な思いをさせてきた生徒である。
・生徒が主体的に学ぶことができるようにするためには、生徒自身が何のために、何をやっているのかを理解させることが必要と考えた。幸い本生徒は教師に「何で？」というように、自ら教師に今から行う行動について質問し確認ができる生徒である。そこを活かし、目標や見通しをもたせることを手だてとして研究の実践を行ってきた。
・研究の実践としては作業学習、校内実習が中心であったが、かかわる先生によっては部活動であったり、各教科であったり、様々な場面で本生徒が満足の得られる活動ができるよう、工夫してきた。研究メンバー以外でもかかわり方を工夫し、協力していただくことができ、大勢の先生方に、本生徒が主体性を引き出せるような、アプローチの方法を考えていただくことができた。
・もともと農作業に興味関心が高く、農芸班に所属する本生徒にとっては、得意分野で自信をもつことができれば、学校生活において主体的に取り組める場面が増えると思われたが、作業量や作業効率の面では、初めて農作業を経験した生徒と変わりなく、作業に対する継続できる力が低かった。しかしパワー祭りが近づき、収穫作業で忙しくなってくると、仕事をせざるを得ない状況になってきた。農芸班全体が収穫作業に追われ、忙しい雰囲気の中で、友達と協力して収穫作業を行う姿が見られるようになってきた。
・作業に集中できず、完全にふざけている時には言葉を返さないようにした。あきらめて、言葉を返してくれるような教師のところに移動していくが、教師間の共通理解を図っているため、一人になって気持ちを落ち着かせ、作業に戻ることができるようになってきた。
・家庭科では、良いモデルになるような生徒とペアにして活動に取り組ませることで、主体的に活動に参加できるようになった。
・初めてのことに対しての抵抗感が強いので、無理強いせずに一度やって見せるようにすると、次からはスムーズに活動できるようになった。
・第Ⅲ期校内実習については、初日に情緒が不安定になった。「だめなものはだめ」という毅然とした対応をすることで、別室で一人にさせ、気持ちを落ち着かせた。その時の担当教師が今の気持ちや、今何をやらなければならないのかを確認し、気持ちの整理をさせることで、次の行動に移るきっかけにとなり、作業に戻ることができた。
・作業は福祉サービス事業所のはし入れを担当した。目標は１日 100 本はしを入れることだったが、全体の納品本数が 5000 本だったので、最終日までに終わらせるにはどうするか考えさせた。報告のやり方や材料の扱いについても厳しく指導をしたが、はしを入れることが本生徒に求められたことであった。実習日誌に自分の出来高をグラフ化したことで、達成感を味わうことができ、自宅で保護者に報告していたようである。その結果１日 300 本入れられるようになった。
・部活動はフライングディスク部に所属している。１学期は「やりたくない」など不安定になることが多く見られた。「１０枚投げたら終わり」など見通しをもたせることで、１０枚投げた後も時間内、最後まで活動に取り組むことができるようになった。
・来年度本生徒は２年生になり、Ｂ型の福祉サービス事業所を希望しているため、産業現場等における実習で校外の実習に参加することになる。また新しい経験をすることになるため、事前学習は十分に行っていきたいと思う。卒業後の働いて生きていく生活を中心に考え、仲間と共に自分の力を発揮し、成就感がもてる生活の実現を目指し、授業やかかわりを工夫していきたい。